

我が子に教わる

山口県 直指院 住職 田村光雄

ある日、小学校二年生の娘と映画館に出かけました。ずっと楽しみにしていた作品を観終わり、「面白かったね」と満ち足りた気持ちで話しながら帰りの支度をしていると、明るくなった館内の廊下に、バラバラとポップコーンが落ちていることに気づきました。

それを見た娘は、そのポップコーンを拾うため腰を屈めました。その行動に娘の成長を感じ嬉しかったのですが、当時感染症にデリケートになっていた私は、「掃除係りの人がきれいにしてくださるから、そのままでもいいよ」と伝えました。ちょうどその時、係の人がホウキとチリトリを持って 劇場内に入ってこられたので、「ほら、あの人がお掃除してくださるんだよ」と教えると、娘は「そっか」と返事をし、出口に向かって歩き出しました。

そして、娘は係の人の前で急に立ち止まりました。そのことに私が驚いていると、娘はお辞儀をしながら「お掃除ありがとうございます」とお礼を伝えたのです。すると、係の人も「いいえ、こちらこそありが

とうございます。またお越しく下さいね」と、お辞儀をしながら応えてくださいました。

このやり取りを見て、私はお経の中のある言葉を思い出しました。それは「相手の気持ちや大変さを想像することが、生きていくうえでとても大切であり、それができる人は年齢や性別などに関係なく、見習うべき人である」という教えです。

この映画館での出来事に、お互いの気持ちを想像し合って交わす「ありがとうございます」という言葉がどれほど尊いのかを教えてくださいました。そして、何より、娘が人の大変さを想像できるようにしたのは、これまで出会った方々が、きっと思いやり深い姿を見せてくださったお陰だろうと思いを馳せることができました。

我が子の大きくなった姿の奥に、大勢の方々の優しさを感じ、「ありがとうございます」と、心の底から伝えられる人間に私もなりたいたく、思いを新たにしました。